

られたら一定の要求獲得闘争のための約束であつて、組合の他の活動を拘束するが如き事はあつてはならぬ。

(四) 労働組合戦線統一方針

労働組合戦線統一の必要は今日種々説明するを要しない。問題は如何なる統一を如何にして實現するかにかゝつてゐる。

海員組合幹部によつて提唱され「共産主義に對する反對」「國際労働會議の支持」を綱領として右翼組合首領に依つて日本労働クラブなるものが作られた。このクラブはその綱領に於いて明らかなる如く、「労資協調主義」を基調としてゐる。今日の協調主義は帝國主義ブルジョアジーの支柱たる以外の何物でもない。かゝる統一は資本家階級が労働者階級を彈壓搾取せんがための反動綱の一部である。日本労働クラブに對する我々の態度は既に明らかである。

我々の望む戦線統一は資本家階級に對する断乎たる闘争のための統一である

従つて我々は統一の目標たる闘争の綱領を明確に掲げてこの闘争に共同する労働組合によつて統一を達成すべきである。何等の目標を定めずして只漫然と統一を結成せんとするが如きは肝腎の闘

争目標を忘れた單なる統一のための統一であつてこれは實際闘争には三文の價値もない。

この意味に於いて我々は總聯盟の行動綱領の精神に基いて、全労働者共通の闘争綱領を決定し、これを掲げて他労働組合に對して戦線統一を提唱すべきである。この統一は全國的統一でなければならぬが組織の便宜上、總聯盟の關西、關東兩地方委員會が主となつて、兩地方に於ける統一を實現し、しかる後總聯盟本部が全國的統一を提議し、このために積極的に活動すべきである。この統一は他團體から提唱された場合と雖も總聯盟の方針と一致する限り、總聯盟の地方委員會、若しくは本部としてこれに参加すべきである。加盟組合が單獨で参加することはこれを排しなければならぬ。

(五) 政治方針

今日の資本主義が労働者階級の生活を積極的に引下けることなしには維持出来ない状態にあることは『内外資本主義の狀態』の項に於いて述べた如くである。従つて今後に於ける我々の經濟闘争は資本主義制度そのものに對する衝突とならざるを得ない。

『政治は經濟の集中的表現である』資本主義制度に對する衝突は單なる經濟闘争ではなくして一